

令和2年度ごみゼロやまがた推進県民会議総会に係る質問・意見とその回答について

1 質問とその回答

No.	委員	項目	質問(委員)	回答(事務局)
1	伊藤委員(公募委員)	資料1	スーパー等による店頭回収の推進の実績が前年比+1,656tと増大しております。一部店舗ではペットボトルの自動回収機が設置され、利用している人も多く、並んでいる場合もあります。このような自動回収機やリサイクルステーションが増える事によりさらに回収が増えると思いますが、県として設置を推進するため補助等は検討されておりますでしょうか。	ペットボトルの自動回収機は、自動的に選別・分別と減容を行うもので、店舗等のポイントサービスとの連携など設置条件によっては回収率が上がることが期待されます。 設置については民間財団の補助制度がある一方、維持管理の面で店舗などの設置者に一定の負担も生じますので、まずは市町村を含めて情報提供を行ってまいりたいと考えております。
2	長谷川委員(山形県食品衛生協会)	資料2	・「5 一般廃棄物のリサイクル率」について リサイクル率の低下傾向について、本県、全国ともに集団回収の実施団体数が減少している影響を受けているものと思われるとのことですが、今後、新たな実施団体を掘り起こす必要があるのではと考えますが、検討を行う予定でしょうか。	少子化や人口減による影響もあり、新たな実施団体の掘り起こしについては課題も多いと思われませんが、市町村と連携しながら取り組んでまいります。
3	川口委員(山形県電機商業組合)	資料2	「7 産業廃棄物の排出量」と「9 産業廃棄物の最終処分量」が急に増加したのは、調査基準が変わった為のものですか。	産業廃棄物については、概ね5年ごとに詳細な実態調査を実施し、その中間年は実態調査に基づく推計を行っております。平成30年度は、実態調査に基づき、発電所由来の燃え殻の処分量の取扱いが変更された結果、最終処分量が増加しました。
4	伊藤委員(公募委員)	資料4	市町村のトップとワーストの理由を分析し、良い事例は他の市町村で活用されているのでしょうか。	全市町村のごみ削減に向けた施策・取り組みを集約のうえ、県内4地域ごとに毎年度開催する「地域循環検討会議」において提供し、各市町村が抱える課題に応じた参考事例について情報交換を行っております。
5	高見委員(山形県PTA連合会)	資料9	各家庭や各職場に何らかの形で配布されますか。	令和2年度ごみゼロやまがた県民運動の展開方針が決定し次第、プレスリリースを行うとともに、県ホームページ、SNS等での発信や、市町村への広報依頼を行う予定です。 また、委員の構成団体を通じて県民運動の周知、取り組みをお願いしたいと考えております。
6	伊藤委員(公募委員)	資料10	環境展の開催は、現在検討中との事ですが、判断時期はいつ頃とお考えでしょうか。	現在、関係団体の意見、イベント等の開催に関する基本方針(山形県新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部)等を踏まえ今年度の開催の可否等について検討しており、できるだけ早く決定したいと考えております。
7	高見委員(山形県PTA連合会)	資料10	「もったいない山形協力店」になったメリット(県のHP等で紹介された反響等)はあったか何か情報があればお聞きしたいです。「協力店」に行った時にスタンプをもらえ、スタンプがたまると〇〇等特典が付くようにするのは難しいでしょうか。	登録店へのアンケートでは、「中高年層の方に共感を持っていただけることが多い」「予約時にお話をお聞きし、八分目の提案をして喜んでいただいた」や、従業員に関しても「お客様の食事後に量についてお聞きし、次回おいでいただくときの参考にする意識付けができてきた」「リサイクル回収に関する意識が高まってきた」などの声をいただいております。 スタンプにつきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。

2 意見とその回答

No.	委員	項目	意見(委員)	回答(事務局)
1	川口委員(山形県電機商業組合)	資料2 資料3	・家庭系ごみ(1人1日当たり)排出量についてプラスチックごみが大変多いと思うが、リサイクル率をみるとプラスチックのリサイクルがあまり行っていないように感じます。	ペットボトルなどを除き、家庭から排出されるプラスチックごみの特徴として種類・品質がさまざまなため、素材そのままでリサイクルを行うには、種類を揃え、かつ汚れや異物をきれいに除去する必要がありますが、そのための分別や洗浄等が技術的・経済的な観点から、国内では普及していません。 したがって、まずは過剰包装・ワンウェイ容器等の排除や、マイバッグ持参拡充とリサイクル・リユース製品活用、さらに再資源化可能なペットボトルや食品トレイの適切な分別の徹底などについて、県民運動による普及啓発を進めてまいります。
2	伊藤委員(公募委員)	資料9	「不要となった食品は、フードバンクなどへ寄付することで有効に活用することができます。」と記載されております。 こちらをもっと具体的に、例えば県内には2つのフードバンクがあり(連絡先等を記載)、フードドライブBOXがどこに設置されているので、余っている食品は賞味期限が切れる前に寄付し活用することができます等、具体的に明記してはいかがでしょうか。 実際、ご家庭で余っている食品があっても、どのようにしたらいいのか記載がされていないと行動できないと思います。	県民の皆様へフードバンク活動について知っていただくことは大変重要です。資料9ではスペースの問題がありますので県のSNSなどでの紹介を検討させていただきます。
3	伊藤委員(公募委員)	資料9	「家庭の生ごみの約8割は水分が占めています」と記載されていますが、どのようにすればいいのか?を記載する。また家庭生ごみをたい肥に利用するための方法を公募してみたいかがでしょうか。 生ごみは、量的にも多くの企業では堆肥化が進んでいます。家庭ごみが堆肥に活用できるとより良い環境システムが築けると思います。	生ごみの水切り方法については、平成24年度に「生ごみ水切りアイデアコンテスト」を実施し、優秀な事例を「ごみゼロやまがた推進BOOK」で紹介しております。資料9ではスペースの問題がありますので県SNS等で発信してまいります。 また、堆肥化については「ごみゼロやまがた推進BOOK」でも紹介しており、助成金を支給している市町村もあります。公募も含め、市町村と連携して推進する方法を検討してまいります。
4	河合委員(環境ネットやまがた)	資料9	・使い捨てプラスチックの使用削減について 「新型コロナウイルス感染症」の影響で、「新たな生活様式」の普及などから飲食店などでテイクアウトの普及から、ここ数ヶ月、プラスチック容器の利用が増えました。今後、社会の動きに着目しながらも、環境に配慮する行動なども考えていかないといけないと思います。 ☆ 保全協総会後の懇親会で3010運動を予定しておりましたが、今年度は開催を見合わせる事になりました。	御意見のとおり、テイクアウトが増加しプラスチック容器の廃棄が増えることによりプラスチックごみ全体が増加しないよう、ごみゼロやまがた県民運動でのプラスチック削減運動(マイバック持参によるレジ袋の辞退、使い捨てのプラスチック製カップやストロー等の不使用、洗剤やシャンプーなどの詰替え商品の利用等)の推進を一層図っていく必要があります。 このことを踏まえ、資料9に、新型コロナウイルス感染防止の基本となる「新しい生活様式」の実践による状況の変化を追記いたしました。
5	細谷委員(みらい子育てネット山形)	資料9	より多くのお母さん方にゴミを減らすにはどうしたらいいのか、もっと具体的に伝えられる機会を作ればと考えています。	多くのお母さん方からもごみの削減に取り組んでいただけるよう、県の「やまがた子育て応援サイト」でのごみゼロやまがた県民運動の紹介など、さまざまな方法を工夫して進めてまいります。
6	高見委員(山形県PTA連合会)	資料10	このような状況で、PTAの会議もなかなか開催できなくなっていますが、在庫があるようでしたら「ごみゼロやまがた推進BOOK」を配布させていただきたいと思っています。 また、令和2年度ごみゼロやまがた県民運動の展開方針案(家庭編)も気をつけるべきところがわかりやすく書かれていますので、ぜひ紹介させていただきたいと思っています。	団体の研修会等で当冊子の配布を希望する場合は、可能な限り提供しますので御連絡ください。 また、「ごみゼロやまがた推進BOOK」を県ホームページにも掲載しておりますので併せて周知くださるようお願いいたします。 ぜひよろしく願いいたします。